

第三者意見

株式会社小中総合研究所

代表取締役 小中 庸夫 氏



民間で長年に亘り審査（ISO14001、EA21等）や環境コンサルを経験してきた視点で、本報告書を拝見させていただきました。以下に感じた点について述べます。

【環境報告書の構成】

環境問題への対応のため、大学が果たす使命である「環境に貢献する科学技術研究」、「環境教育と人材育成」、「社会貢献活動」、「大学自身の環境負荷低減」について環境報告書に網羅されています。

優れた内容を記載している各章が独立している印象を受けました。報告書のはじめに、東工大が目指す将来像と環境報告書に掲載されている各章とのつながりを分かりやすく示した「例えば、東工大の将来に向けた環境の取り組み俯瞰図」を掲載すると、全体のつながりが良くなると考えます。

【環境問題解決に向けた最新の研究開発紹介】

2021年6月に開設したゼロカーボンエネルギー研究所の研究活動内容、地域共生型再生可能エネルギー計画学の取り組み内容、微生物でつくる環境低負荷型プラスチックの研究開発事例を紹介しています。今最も関心が高い課題のエネルギー並びに廃棄物問題に取り組む東工大の積極的な姿勢を窺えました。今後、最新の研究開発を紹介するとともに、東工大が大きく寄与し実現した環境負荷低減技術も紹介すると、東工大の過去、現在、未来に対する優れた寄与を多くの人に伝えることができると考えます。

研究開発紹介で「Q&Aコーナー」があり、紹介内容に親しみを持つことができました。枠を付けられていますが、紹介文面と連続している感じがあるので、絵や写真等を挿入し、より親しみ易くすることを期待します。

【省エネルギーとCO₂削減の取組】

本館に太陽光発電設備の設置、高効率機器の採用

（空調機・変圧器の高効率機器への更新、照明のLED化等）、EV・FCV車導入、「節電と省エネガイドライン」による節電・省エネ活動の徹底等により省エネ目標並びに省エネ法や条例の基準値達成を評価します。2050年カーボンニュートラルに向けてCO₂削減の要求が益々高まりますので、長期視点に立った省エネ、CO₂削減計画を策定し、遂行されることを期待します。

【化学物質の管理および実験廃棄物の適正処理】

大学は研究開発のために多くの化学物質を使用しており、管理が不十分な場合には事故や環境汚染が発生している事例があります。東工大では「化学物質管理支援システム」、「実験廃液・廃棄物処理申請システム」を活用し、6万本の薬品の在庫管理、使用される3~4万本の薬品から生じる廃棄物管理を徹底していることが良く分かりました。今後とも管理レベルを向上させると共に、ノウハウを他の大学へも提供してください。

最後に、最先端技術の人材育成および研究開発をされている東工大の環境報告書への第三者意見の機会を頂き有難うございました。



2022年7月27日実施の監査風景